

10月になり、季節がグッと秋らしくなりました。今年の支援センターの畑はとても豊作でした。親子でおいしい秋の実りを味わえました。お楽しみはまだ2つあります。一つ目は『さつまいも』です。去年初挑戦しましたが、小さいのが数個でした。今年のやきいも大会は、大きく育ったさつまいもをたっぷり味わいたいです。二つ目は『えだまめ』です。今年は大豆にして収穫しました。お母さんたちとミニ講座「味噌作り」に挑戦します。実りの秋を満喫しましょう。

アートなまちプロジェクト



完成!!
焼き上がりました!

「陶芸でひだまり看板を作ろう」8月5日の粘土の成形から始まり、素焼きをして、9月12日のミニ講座で色付け作業をしました。参加したお母さん方は、とても丁寧に陶芸用絵の具で色を塗っていました。集中した1時間半の作業はあっという間で、「すごく楽しかったぁ♡」と仕上がり待ち遠しい様子でした。



その後、講師の方に透明の釉薬をかけてもらい本焼き、9月17日に窯から出すと、とっても素敵に焼き上がっていました。10月23日からの公民館・文化祭に展示した後、子育て支援センターの東側、外壁に設置予定です。講師の陶遊同好会・井幡さん、美馬さん、看板づくりに参加してくれた皆さん、ご協力本当にありがとうございました。

本の紹介

「子育ての不安が消える魔法のことば」 村上里和 [編]

「ほめて育てるとよいと聞かすが、ほめすぎると甘やかしているようで、ほめ控えたりしてしまいます。どこまでほめたらいいの？」40代・女性



ほめるのが苦手という方もいます。そういう場合は子どものことばを繰り返す。例えば「タワーつくったよ」と言われたら、「タワー作ったんだね」と繰り返す。やっていることをそのまま言葉にする。例えば靴を揃えて脱いでいたら「靴を揃えて脱いだんだね」と、気づいていること、見ていることを伝える。最初は難しくても、お互い温かい気持ちになれます。1日5分いいところ、ふつうにできていることに注目してみるといいですよ。「見てるよ」「関心を向けてるよ」と示すことでいいんです。 福丸由佳

例えば、洗い物をしている時に、子どもが「ママ見て!」と言ったら、そのときに、洗い物の手を止めて「どうしたの?」って、子どもと目線を合わせてアイコンタクトをすると、それが実はほめることに相当するんですよ。脳の活動から、きちんと見てあげるだけで子どもにとってはほめられているのと同じ。大事なものは、「ほめことば」じゃなくて「ほめ態度」「ちゃんと見守ってもらっている」ということが大事なんです。 茂木健一郎